

2020年度（令和2年）事業報告

昨年に引き続き、依然として収束の出口が見られない新型コロナ感染の猛威は、新たな変異株の出現と共に、社会全体に大きく影を落としています。幼い児童を含む、私共、児童養護施設の現場では、日々の感染予防に渾身の思いで努めながらも近隣、各学校、地域での感染者の情報や濃厚接触等の疑いによるPCR検査の結果を確認しながら対応に苦慮している現状です。

一方で、ワクチン接種への期待も徐々に高まり、神戸市においては、今般 児童福祉施設従事者に対しての優先的なワクチン接種が可能となる等、少しずつ感染への不安が軽減されて行く方向へ希望の光が見い出されております。

一方、児童の生活は、公私共に日常的にもさまざまな制限が加わり、心身共にストレスを感じるなど、健康面での影響も図り知れない状況ですが施設全体で、児童ひとりひとりに寄り添い、思いを共有しながら、彼らの生活支援に支障の来たすことがないよう職員自身も自己の健康管理に努めながら、施設運営を推進して参りました。

2020年度は、従来からの養育ケアの流れを受け、2ヶ所の分園型小規模グループホーム「友愛」「和愛」を含め本体施設との密接な連携体制の中で、さまざまな課題や障がいを抱える児童ひとりひとりに寄り添い、その家族への支援も模索しながら、児童の自立支援（リービングケア・アフターケア）に向けた事業を展開して参りました。またそれを担保する専門職の人材確保、育成、定着化に向けても各就職フェアや各大学等の実習制度も活用しつつ人材発掘に取り組んで参りました。

1. 養育・療育推進事業

* 現在、入所児童の約7割がネグレクトを含む何らかの被虐待児童であることに鑑み、児童及びその家族への対応、支援を主軸とした養育・療育の推進を図るとともに、児童ひとりひとりに向けて心理ケアなどの個別対応を心掛け、必要に応じて家族再統合に向けての話し合いや家庭支援を図って参りました。また自立支援コーディネーターの配

置によって自立の多様性を模索し、其々の児童に応じた進路を検討し担当職員と共に連携して支援して参りました。

◆ 児童生活支援について

- (1) 個人の課題に沿った支援プログラムの立案、心理ケアの実施
2019年度より実習受け入れ施設として神戸大学と正式に提携
[神戸大学発達心理学科 メンタルフレンド（12名）による
心理療法の実施およびスーパービジョンの実施]（別紙 参照）
- (2) こども家庭センターとの連携（通所指導・心理判定・一時保護）
- (3) 学習進路指導における学習塾への修学、学習ボランティアの活用（小・中・高生対象）
- (4) 個別対応児童の家庭生活体験等の実施
- (5) 各学校・教育機関との連携を図るための交流会・個別カンファレンスの実施（原田中学校・稗田小学校）
- (6) 児童の権利擁護や苦情等の解決に向けた中・高校生会の開催
- (7) 食育を通して、食の重要性を理解させ、行事食や伝統文化にも触れる機会を提供しました（例：元旦行事食・桃の節句・端午の節句・お寿司の会・クリスマス会等）

◆ 自立支援について

- (1) 各児童における自立支援計画を担当職員と自立支援コーディネーターの連携・協議により具体的に策定し、年2回の見直しと検討を実施しました。
- (2) 調理実習（児童によるお楽しみ料理の会）を実施、高年齢児においては自立のための調理実習の機会を設けています。
- (3) 社会性を担保するためのアルバイト体験
就労を経験することによって経済的自立の重要性を認識させる機会としました。
- (4) 各グループホームにおいて、自立に向けての年齢に応じた生活体験、自活訓練を実施しました。

2. 人材育成推進事業

*自閉症スペクトラム障がい児や軽度の知的障がい児を含む入所児童への理解と生活支援や援助技術の向上を担保し、ケアニーズの高い児童への対応やスキルを向上させるためにも人材の育成を図って参りました。

- (1) 各研修会（全養・西日本・近畿）各児童養護施設職員研究協議会への参加と協力（2020年はコロナ禍のため、一部のみリモート研修会として実施されました）
- (2) 研修会後の施設内研修報告会の実施（フィードバック）
- (3) スキルアップ研修会への職員参加（リモート研修として参加）
- (4) 市民福祉大学主催の各研修会（ワークショップ,ロールプレイ等を含む）への参加等（リモート研修として参加）

3. 分園型小規模グループケアの継続実施（別紙 参照）

グループホーム「和愛」の現状と課題

グループホーム「友愛」の現状と課題

4. 施設設備・機能強化事業

*新型コロナ感染対策として、本園舎屋4階にコロナ感染者対象のための隔離・静養室を改修・設置し、それに伴う屋上部分の雨漏り等の全面改修を実施しました。

*本園施設の漏電防止対策工事を実施しました。

*児童の生活環境をより向上させるため、各居室の整備・施設全体のメンテナンスを図りました。

5. 防犯・防災訓練の実施（別紙 参照）

災害非常時等への対応・対策の訓練を行いました。

6. 新型コロナウイルスや新型インフルエンザ等の感染症対策について児童の保健衛生に関する情報収集や具体的な予防対応に努めました。
- ・ 玄関部：非接触型検温器及び手指消毒用アルコール噴霧器の設置
 - ・ 施設内各所（各グループホームを含む）
 - ：手指消毒用アルコールの常備・低濃度オゾン噴霧器を設置・アクリル板の配備
 - ・ 感染予防対策：マスク・防護服・アルコール消毒液等の備蓄

2020年度（令和2年） 本園事業報告

令和2年3月3日より新型コロナウイルス感染のため、緊急事態宣言の発令により、子ども達の生活が一変しました。

休校措置で一步も外へ出られず、舎内で缶詰状態となり退屈な日々が続きました。また、帰省や面会・外泊の中止で親御さんと会えなくなり、寂しい気持ちで心が押し潰されそうになる児童もいました。

子ども達が一番楽しみにしている、夏の小浜キャンプとヨットキャンプ、ボウリング、小学生は、教会のバイブルキャンプも中止になりました。

冬は、神戸ルミナリエに行けず、教会と舎のクリスマス礼拝祝賀会が中止になり、劇や讃美歌など、親御さんや学校の先生に披露することが出来ませんでした。

外部からの招待行事も、全てお断りさせて頂かなければなりませんでした。

これらの代わりに、少しでも楽しめる事を子どもと職員で一緒に考えて、毎週DVDをレンタルしたり、お寿司を2回各自の桶での注文や、ピザやケンタッキー・フライド・チキンを注文し普段食べられない様な夕食にしました。

クッキングでは男子が、たこ焼きパーティーや鍋パーティーをしたり、女子はホットケーキやクレープなどを作り楽しみました。

おもちゃ券の御寄贈もあり、クリスマスには、スイッチライトを児童にプレゼントする事ができた時には、大いに喜んでもらいました。

又、令和3年3月には、モバイルタブレット（兵庫韓国青年商工会様より）を8台ご寄贈頂き、子ども達のIT・リモート環境も充実して来ました。

本当にこの一年、行事に向かうのモチベーションも低く、外でスポーツも楽しめず、心身ともにストレスを抱えながらも感染予防に頑張ってくれました。

早くコロナが終息し、子どもらしい生活ができることを心から願うばかりです。

主任指導員：小 瀬

2020年度（令和2年）グループホーム和愛 事業報告書

新型コロナウイルスが終息しないまま、令和2年度を終えました。舎ではほぼ全ての行事がなくなり、学校行事も縮小したり、観覧制限があったりと「我慢」の年になりました。和愛の子ども達もたくさん我慢をしました。そんな生活の中でも社会人はしっかり勤務し、中学3年と高校3年の児童は無事卒業することが出来ました。

コロナ禍において、社会、舎に新たなルールや規制が出来ました。もちろん子ども達から不満も出ましたが、「何が最善か」「どう生活するべきか」を自ら考えて行動する様に促してきました。子ども達はその規制の中で出来る事を模索して生活することが出来ています。自ら考えて行動する力はコロナ禍でなくても大切な力だと思います。今後も伸ばしていきたいと思っています。

グループホーム和愛担当：平 田

2020年度(令和2年) グループホーム友愛 事業報告書

2020年4月、大学生1人、高校3年生2名、高校2年生2名、計5名と一緒に暮らしていた。

昨年度児童の流動：

2020年5月、緊急事態宣言が解除されたため、大学1年生の児童が一人暮らし開始。

2020年5月、高校2年生のNちゃん本園からホームに引越し。

2021年3月、高校2年生のYちゃん家庭引き取り。

2021年3月、専門学校に合格した高校3年生児童一人暮らし開始。

2021年3月、高校1年生のAちゃん本園からホームに引越し。

2021年3月末、新高校1年生のKちゃん本園からホームに引越し。

高校2年生の児童は2019年6月から現在もひょうごこころの医療センターに入院中。

昨年度は2人の児童がホームを出て自立し、1人が家庭引き取り、3人の児童がホームに引越しをしてきて、2021年3月末で、高校3年生1名、高校2年生2名、高校1年生1名、中学3年生(新高校1年)1名、計5名と一緒に生活している。

高校3年生の2人のうち、1名は専門学校に合格、1名は就職している。

職員体制は再び3人の職員が固定で配置されるようになる。

● アフターケア

退所した児童に関して最初は1ヶ月に1回家庭訪問を行い、4ヶ月後からはそのペースを減らしていた。その中には引き続き、見守りなどが必要な児童もいる。

● 進路支援

2人の児童が進路の岐路にいたため、2学期から子ども達とコミュニケーションをとりながら、それぞれが進学を希望する学校と就職したい業種を決めていき、テスト・面接対策をしたりして、2人とも無事に自分が希望していたところに進路が決定した。

● 性教育

子ども達に一方的に教える方式ではなく、職員と子ども達がみんなと一緒に話をしながら学ぶ方式をとることで、子ども達も素直に受け入れていた。テーマは異性との付き合い方、自分を守る方法など。

● イベント

子ども達の誕生日パーティ、コロナで出かけられない状況の中、ホームで出来るたこ焼きパーティ、鍋パーティ、DVD鑑賞などを行っていた。

グループホーム友愛担当：金・小金谷・今市

2020年度（令和2年） 防災・防犯事業報告書

目 的

施設入所している児童・職員の安全を向上させるため、防災・防火の訓練に努めることを目的とし、職員個々の防災・防火への意識の向上を行うものとする。

① 施設内避難訓練

令和2年4月～令和3年2月 毎月1回

4月	避難の際、それぞれの役割を決めなおす。役割の確認を行う。 避難場所・避難経路の確認を行う。
5月	避難訓練の流れを覚えてもらう。 どのような時に火事が起こるかの説明をして理解してもらう。
6月	消化器の使い方と種類を覚えてもらう
7月	初期消火の重要性について学ぶ・防犯に関する講義を行う。
8月	火災で発生する、煙について理解を深めてもらう。
9月	家庭内で起こる火災について学ぶ。 避難訓練の際の注意事項の確認
10月	避難通路と避難場所の確認を行う。 避難時の点呼の重要性の伝える。
11月	火災報知機について知ってもらう。
12月	コンセントからの自然発火について知ってもらう。
1月	地震からの火災 阪神大震災の時の様子を伝え、地震の怖さ、2次災害の怖さを知ってもらう。
2月	地震・津波の際の避難方法を学ぶ。
3月	総合防災訓練行い、総体的で実践的な訓練を行う。

訓練内容：避難訓練・消火訓練・避難誘導訓練及び点呼

② 施設内自主点検

令和2年4月～令和3年3月 毎週1回

③ 自衛総合防災訓練 令和3年3月25日

避難訓練・消火訓練・通報訓練

④ 消防用設備点検（有限会社カンバラ依頼）

令和2年6月3日・12月22日に実施

⑤ 防犯に関する訓練 年1回（7月）

2020 年度（令和 2 年） 心理療法実施報告書

愛神愛隣舎 心理室 本田浩子

【対象児童】

対象となった子どもは 25 名（内訳は以下の通り）。

	身体的 虐待	保護の怠 慢・拒否	性的 虐待	心理的 虐待	ひきこもり	その他	計
就学前				1			1
小学生		5		1			6
中学生	1	2	1				4
高校生等	6	7		1			14
計	7	14	1	3			25

【個別セラピー】

基本的に 1 人、週 1 回、50 分のセラピーを実施。年間で 25 名の児童に対し合計 672 回。

【グループセラピー】

3 グループ、各グループ月 1 回、40～50 分、セラピスト 2 名、担当ケアワーカー 1 名、メンタルフレンド 1～2 名が参加して、性教育、行動統制ワーク等のグループを実施。

小学低学年男女（4 名）	：	7 回
小学高学年男子（2 名）	：	6 回
中高校生男子（5 名）	：	6 回
合 計		19 回

【メンタルフレンド】

神戸大学大学院生 12 名の実習生および臨床心理 1 名のボランティアによるメンタルケアを実施。

【その他】

心理療法士の職員会議およびケース検討会への参加：45 回

スーパービジョン（助言および指導）の実施：438 回

通所・通院（精神科）への付き添いと他機関の心理士および精神科医との連携：86 回
生活場面面接：62 回を行う。

大学院実習生の指導：271 回を行う。

職員へのストレスチェック：2020 年 7 月 7 日～9 月 15 日の間で 16 名実施。